

### 3 学習指導案

# 入学年次

本時のねらい	剣道の歴史や特性などの基礎知識を知るとともに、単元の目標や学習の仕方について理解することができる。		1-①
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能 No.はDVDの目次と同じ
はじめ 20分	1 整列、あいさつ 2 剣道の歴史や特性を学ぶ。 3 本単元の学習の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察、出欠を確認する。</li> <li>本時の学習内容について説明する。</li> <li>剣道学習の流れや授業の行い方、約束事を説明する。</li> </ul>	1 剣道の歴史、剣道学習の約束事
なか 25分	4 礼法 (1)立礼 (2)座り方、立ち方 (3)正座 (4)座礼 (5)黙想 (6)道場への出入りの仕方 5 剣道要素を含んだ体ほぐし (1)突き押しゲーム (2)剣道ジャンケン①(打突部位) (3)剣道ジャンケン②(防御) (4)剣道ジャンケン③(応じ技) (5)剣道ジャンケン④(残心) (6)剣道ジャンケン⑤(踏み込み足) (7)声だし(大きな声を出す)	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な行動の仕方について示範を交えて説明する。</li> <li>教師の号令に合わせて、互いに向かい合って相手を変えたりしながら、立礼の反復練習を行う。</li> <li>ゲームの中に、剣道学習で学ぶ内容が含まれていることを説明する。</li> </ul>	2 礼法 (伝統的な行動の仕方)  3 突き押しゲーム 4 剣道ジャンケン① 5 剣道ジャンケン② 6 剣道ジャンケン③ 7 剣道ジャンケン④ 8 剣道ジャンケン⑤ 9 声出し
まとめ 5分	6 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 7 退場時の礼法	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをする。</li> <li>姿勢や礼法を確認する。</li> <li>本時より道場を出るときの礼法を行う。</li> </ul>	

本時のねらい	剣道具（胴・垂）の着装、片付け方法や相手の動きに応じた動作のもとなる基本動作（自然体、中段の構え、足さばき）を理解することができる。		1-②
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 20分	1 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼  2 準備運動 3 本時の学習内容をつかむ 4 剣道具（垂、胴）を着ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時より道場に入る際の立礼を行わせる。</li> <li>・姿勢や礼法を確認する。</li> <li>・本時の学習内容について説明する。</li> <li>・教師が示範を示しながら説明する。（示範は経験者でもよい）</li> </ul>	10 胴、垂の着装方法
なか 20分	5 竹刀の扱い方  6 基本動作 (1)自然体 (2)竹刀の握り方 (3)中段の構え (4)構え方納め方 (5)蹲踞  7 足さばき (1)歩み足 (2)送り足  8 足さばきの判定試合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「竹刀は刀である」という観点から、扱い方法や安全点検について説明する。</li> <li>・基本動作の内容について示範を交えて説明する。</li> <li>・足さばきの方法について示範を交えて説明する。</li> <li>・足さばきは全てすり足で行わせる。</li> <li>・教師の号令に合わせて行ったり、2人一組で向かい合って行ったりして、相手の動きに応じた足さばきを理解させる。</li> <li>・前後左右の足さばきの勝負を行わせ、負けた側には①～③の判定基準の理由を伝える。              ①相手から目を離さない（目付）              ②相手の動きに遅れない              ③すり足で行う</li> </ul>	11竹刀の部位、名称 扱い方と安全点検の注意点  12自然体 13竹刀の握り方 14中段の構え 15構え方、納め方、蹲踞  16歩み足、送り足  17足さばき練習方法 1対1（試合方法） 集団での練習方法  18目付け
まとめ 10分	9 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼  10 剣道具（胴・垂）の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめをする。</li> <li>・姿勢や礼法を確認する。</li> <li>・道具（胴・垂）の片付けを確認する。（着装指導時に、片づけ方を指導すると効果的）</li> </ul>	19 剣道具（胴・垂）の片付け方法

本時のねらい	素振りや空間打突の方法を知り、刃筋正しい竹刀操作と気剣体一致した素振りや空間打突ができるようになる。		1-③
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ15分	1 剣道具（胴、垂）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 準備運動 4 本時の学習をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで協力して着装する。</li> <li>礼法、着装を確認する。</li> <li>前時学習した内容を確認させる。</li> <li>本時の学習内容について説明する。</li> </ul>	
なか30分	5 素振り (1)上下振り 6 空間打突 (1)正面打ち (2)小手打ち (3)胴打ち (4)素振りで行う空間打突 ①正面打ち ②面-小手-胴 7 素振り、空間打突の判定試合 グループ内の総当たり戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>方法について示範を交えて説明する。</li> <li>一本となる振り「気剣体」のポイントを説明し、「一致」させた動きになるよう練習させる。</li> <li>打突時の手の内の作用について説明し、打突部位の高さ、方向に注意させながら刃筋正しく行わせる。</li> <li>空間打突を素振りの要領で行わせる。</li> <li>送り込む方の足の引きつけが遅かったり、残らないよう早く行わせる。</li> <li>学習した素振りや空間打突について、できばえを競い合う試合を通じて、「気剣体の一致」した動作の習得を目指した試合を行わせる。</li> <li>試合方法、審判の号令や判定方法①～③について説明する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①大きな声</li> <li>②打突部位の高さ、刃筋</li> <li>③送り込む足の早い引きつけ</li> </ul> </li> <li>審判も試合者も真剣な態度で臨ませる。</li> <li>周囲の安全に留意させながら、竹刀がぶつからないように活動させる。</li> </ul>	20上下振りの方法 21「気剣体」の一致 22素振りの練習隊形 23空間打突（正面打ち） 24空間打突（正面・小手・胴） 25素振り、空間打突の試合
まとめ5分	8 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 9 剣道具（胴、垂）の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをする。</li> <li>姿勢や礼法を確認する。</li> <li>剣道具（胴、垂）の片付けを確認する。</li> </ul>	

本時のねらい	基本打突の打ち方、竹刀での受け方を理解し、気剣体の一致を意識した打突動作で打ち込むことができる。		1-④
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（胴、垂）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り 上下振り 斜め振り 空間打突	<ul style="list-style-type: none"> <li>剣道具を各自で着装し、できない場合はグループで協力して着装させる。</li> <li>礼法や着装を確認する。</li> <li>本時の学習内容について説明する。</li> <li>元気に発声し、刃筋正しく行わせる。</li> </ul>	
なか 30分	5 基本打突（正面打ち・小手打ち・胴打ち）の打ち方、受け方 (1)その場での打突 (2)その場からの打突 ①すり足で一歩前に出ながらの打突 ②踏み込み足での打突 (3)間合いについて (4)一足一刀からの打突 6 基本打突の判定試合 正面打ち・小手打ち・胴打ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹刀での受け方の方法を示範し、周囲の安全や竹刀の安全点検に留意させながら行わせる。</li> <li>打突と打突時の発声が一致するようにさせる。（気剣体の一致）</li> <li>胴打ちは直接打突部位を打たせる。</li> <li>振りかぶるときは、両肘を張りすぎないように相手が見えるところまで振りかぶらせる。</li> <li>刃筋正しく打っているか弦の向きに注意させる。</li> <li>一足一刀の間合いについて理解させる。</li> <li>竹刀の打突部（物打ち）で刃筋正しく打たせる。</li> <li>踏み込み足は無理な踏み込みにならないよう、右足から体を出す動きを身につけさせる。</li> <li>試合方法、審判の宣告や判定方法について説明する。</li> <li>審判は敗者に判定による勝敗の理由（①～③）を伝える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①大きな声</li> <li>②刃筋正しく部位を打つ</li> <li>③残心</li> </ul> </li> <li>礼法や所作事も正確に行わせる</li> </ul>	26その場での打突 27その場からすり足で打ち込む練習 28その場から踏み込み足で打ち込む練習 29間合いについて 30基本打突の判定試合①
まとめ 5分	7 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 8 剣道具（胴、垂）の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをする。</li> <li>姿勢や礼法を確認する。</li> <li>剣道具（胴、垂）の片付けを確認する。</li> </ul>	

本時のねらい	面、小手の着装を理解し、一本打ちの技の打ち方、打たせ方を学び、有効打突の決め方を工夫したり、有効打突の見極めに慣れながら判定試合をすることができる。		1-⑤
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ15分	1 剣道具（胴・垂）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り 上下振り 斜め振り 空間打突 5 基本打突の復習 （元立ちの受け方さばき方②） 正面打ち、小手打ち、胴打ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道具を各自で着装し、できない場合はグループで協力して着装させる。</li> <li>・礼法や着装を確認する。</li> <li>・本時の学習内容について説明する。</li> <li>・元気で発声し、刃筋正しく行わせる。</li> <li>・竹刀での安全な抜け方を確認し、大きな声で刃筋正しく打ち、素早く残心をとることに留意させて行わせる。</li> </ul>	
なか25分	6 剣道具（面、小手）の着装 (1)手ぬぐいのかぶり方 (2)面の着装 (3)小手着装 7 一本打ちの技（正面打ち） (1)間合いと打たせ方（打つ機会の与え方）について (2)正面打ち (3)小手打ち (4)胴打ち 8 基本打突の試合 ・グループの総当たり戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が示範を示しながら説明する。（示範は経験者でもよい）</li> <li>・面の内側の上下に顎、額を合わせるようにさせる。</li> <li>・紐は協力して縛るようにさせる。</li> <li>・元立ちの打つ機会の与え方について（①～③）示範を示しながら説明する。（示範は経験者でもよい）</li> <li>①面（剣先をやや右に開く）</li> <li>②小手（剣先をやや上に上げる）</li> <li>③胴（手元を上げる）</li> <li>・両拳が正中線を通るようにさせる。</li> <li>・竹刀の打突部で正確に打つようにさせ、刃筋正しく打っているか弦の向きに注意させる。</li> <li>・送り出した足の早い引きつけと残心を習慣にさせる。</li> <li>・審判は敗者に判定による勝敗の理由①～③を伝える。</li> <li>①大きな声</li> <li>②気剣体の一致した打突</li> <li>③残心</li> <li>・礼法や所作事も正確に行わせる</li> </ul>	31手ぬぐい（兜型）の作り方 32面、小手の着装方法 33元立ちの打つ機会の与え方 34打突部位 35一本打ちの技 （面・小手・胴） 36基本打突の試合方法②
まとめ5分	9 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 10 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめをする。</li> <li>・姿勢や礼法を確認する。</li> <li>・剣道具の片付けを確認する。</li> </ul>	



本時のねらい	連続技（二段技）の行い方を理解し、互格稽古での攻防に活かすことができる。		1-⑦
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼  3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り 上下振り 斜め振り 空間打突  5 基本打突の復習 （竹刀での受け方さばき方②） 正面打ち 小手打ち 胴打ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。</li> <li>・礼法や着装を確認する。</li> <li>・本時の学習内容について説明する。</li> <li>・元気に発声し、刃筋正しく行わせる。</li> <li>・竹刀での安全な抜け方を確認し、大きな声で刃筋正しく打ち、素早く残心をとることに留意させて行わせる。発声を元気に、刃筋正しく行わせる。</li> </ul>	
なか 30分	6 剣道具（面、小手）の着装 7 前時の復習を約束稽古で行う。 ・一本打ちの技  8 しかけ技（連続技） 二段技：面から胴（面→胴） 小手から面（小手→面）  9 打ち込み稽古② 正面→小手→胴→面・胴→小手・面の 順で打突する  10 互格稽古（1分間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人1組（班）で着装させる。</li> <li>・元立ちの打つ機会の与え方や打たせ方の再確認する。</li> <li>・掛かり手には、①～④の点に留意させながら行わせる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①大きな声で行う</li> <li>②刃筋正しく打ち込む</li> <li>③送り出した足を速く引きつける</li> <li>④素早く残心を示す</li> </ul> </li> <li>・掛かり手には大きな動作で行わせ、最初の打突によって隙が出た部位をすかさず打つようにさせる。</li> <li>・送り出した足を速く引きつけることで次の打突に素早く移行できることを説明する。</li> <li>・元立ちは、一打目を打たせた後、後方へ一歩大きくさがって二打目を打たせるようにさせる。</li> <li>・元立ちは打ち込み稽古①の留意点に加えて、二段技の打たせ方に留意して行わせる。</li> <li>・掛かり手が打ち終わったら、すかさず元立ちと掛かり手の役割を交代して打ち込むようにさせる。</li> <li>・竹刀の安全点検や周囲の安全に注意させながら行わせる。</li> <li>・号令係は見取り稽古を行い、終了後に両者の稽古の内容で気づいたところを指摘し合えるようにさせる。</li> <li>・学習した二段技を積極的に出させる。</li> </ul>	40二段技 面→胴、小手→面  41打ち込み稽古② （二段技を入れた方法）
まとめ 5分	11 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼  12 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめをする。</li> <li>・姿勢や礼法を確認する。</li> <li>・剣道具の片付けを確認する。</li> </ul>	

本時のねらい	引き技の行い方を理解し、互格稽古での攻防に活かすことができる。		1-⑧
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り 上下振り 斜め振り 空間打突 5 二段技の復習 面→面 小手→面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。</li> <li>・礼法や着装を確認する。</li> <li>・本時の学習内容について説明する。</li> <li>・元気に発声し、刃筋正しく行わせる。</li> <li>・竹刀での安全な抜け方を確認し、大きな声で刃筋正しく打ち、素早く残心をとることに留意させて行わせる。発声を元気に、刃筋正しく行わせる。</li> <li>・3人1組（班）で行わせる。</li> </ul>	42竹刀で受ける二段技の練習
なか 30分	6 剣道具（面、小手）の着装 7 前時の復習を約束稽古で行う。 ・一本打ちの技 ・二段技（面→胴、小手→面） 8 しかけ技（引き技） (1) 鑢ぜり合い (2) 引き胴 (3) 引き面 9 打ち込み稽古③ 正面→小手→胴→面・胴→小手・面→ 面・引き面→面・引き胴→面の順で打突する 10 互格稽古（1分間） 11 試合（個人戦・一審制） (1) 試合方法について (2) 審判について (3) 反則と禁じ技について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人1組（班）で着装させる。</li> <li>・元立ちは掛かり手の攻め込みを見計らい、タイミング良く打つ機会を与えるようにさせる。</li> <li>・掛かり手は大きく掛け声をかけながら、遠間から一歩攻め、元立ちの隙を素早く捉えて打つようにさせる。</li> <li>・二段技は、最初の打突が一本になるような打突になるよう心がけさせる。</li> <li>・鑢ぜり合いは最も接近した間合いで、緊迫した間合いであることを説明する。</li> <li>・周囲の安全やさがる方法を確認して行わせる。</li> <li>・打突後は、中段の構えになりながら送り足でさがるようにさせる。</li> <li>・元立ちは、掛かり手の崩し(攻め)にタイミング良く応じて打たせるようにする。</li> <li>・元立ちは打ち込み稽古①②の留意点に加えて、引き技の打たせ方に留意して行わせる。</li> <li>・掛かり手が打ち終わったら、すかさず元立ちと掛かり手の役割を交代して打ち込むようにさせる。</li> <li>・竹刀の安全点検や周囲の安全に注意させながら行わせる。</li> <li>・号令係は見取り稽古を行い、終了後に①～③の観点で両者の稽古の内容で気づいたところを指摘し合えるようにさせる。            ① 気迫を出して遠間から攻めているか            ② 気剣体の一致した打突を出しているか            ③ 学習した引き技を積極的に出させているか。</li> <li>・試合方法や審判のやり方について説明する。</li> <li>・反則と禁じ技について説明する。</li> <li>・有効打突の条件として、①～③を説明する。            ① 打突部位に当たっている            ② 大きな声            ③ 打突後遠間をつくり残心をとっている。</li> <li>・竹刀の安全点検や礼法を正しく行わせる</li> </ul>	43 引き技 引き胴、引き面 44 打ち込み稽古③ （引き技を入れた方法） 45 試合・審判方法① 46 試合・審判方法② 禁じ手
まとめ 5分	12 整列、評価、あいさつ、 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 13 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめをする。</li> <li>・姿勢や礼法を確認する。</li> <li>・剣道具の片付けを確認する。</li> </ul>	

本時のねらい	互いに打突し合う中で有効打突を取るために、基本の打突の錬度を高め、試合での攻防に活かすことができる。		1-⑨
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り 上下振り 斜め振り 空間打突 5 引き技の復習 引き胴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。</li> <li>・礼法や着装を確認する。</li> <li>・本時の学習内容について説明する。</li> <li>・元気に発声し、刃筋正しく行わせる。</li> <li>・竹刀での安全な抜け方を確認し、大きな声で刃筋正しく打ち、素早く残心をとることに留意させて行わせる。発声を元気に、刃筋正しく行わせる。</li> </ul>	
なか30分	6 剣道具（面、小手）の着装 7 打ち込み稽古 (1)打ち込み稽古③ (2)打ち込み稽古④ 元立ちが自由に打たせる機会を与えて打たせる方法 8 相手の動きの変化に応じた技への導入 (1)面の1本勝負 (2)面对胴の1本勝負 9 試合（団体戦）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人1組（班）で着装させる。</li> <li>・3人1組（班）で行わせる。</li> <li>・打ち込み稽古③の留意点を確認して行わせる。</li> <li>・元立ちは無作為に隙を与えるようにさせる。その際間合い、タイミングなど掛かり手がスムーズに打突できるよう呼吸を合わせて行うようにさせる。</li> <li>・互格稽古や試合の中で、ほぼ同時に打突する場面が増えてくることへの対応の仕方として①～③の要素が大切になってくることを説明し、同時に打突した際に、有効打突を決めるためにはどのような課題が必要になるか考えさせる。                          ①前に出る勇気（＝元気な声）                          ②相手の方向へ体を出す（横に逃げない）                          ③打突後の勢い（打突の姿勢が残った状態で送り足ですり抜ける）</li> <li>・試合方法や審判のやり方について説明する。</li> <li>・有効打突を判定する際の動き方や表示の仕方について説明する。</li> <li>・勝敗の結果を真摯に受け止め、自分の課題把握につなげていけるような態度で臨ませる。</li> <li>・竹刀の安全点検や礼法を正しく行わせる。</li> </ul>	47打ち込み稽古④ （元立ちが自由に機会を与える方法） 48相手の動きの変化に合わせた動きの導入（1本勝負） 面对面、面对胴
まとめ5分	10 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 11 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめをする。</li> <li>・姿勢や礼法を確認する。</li> <li>・剣道具の片付けを確認する。</li> </ul>	

本時のねらい	簡単な規則による試合を行う中で、これまで学習してきた技能を活かした攻防を行うことができる。		1-⑩
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 10分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り 上下振り 斜め振り 空間打突	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。</li> <li>• 礼法や着装を確認する。</li> <li>• 本時の学習内容について説明する。</li> <li>• 元氣よく発声し、刃筋正しく行わせる。</li> </ul>	
なか 30分	5 剣道具（面、小手）の着装 6 自由稽古 グループで稽古法を選んで課題練習を行う 7 試合（団体戦）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3人1組（班）で着装させる。</li> <li>• 3人1組（班）で行わせる。</li> <li>• 課題を話し合った後、前時までに学習した稽古法（約束稽古、打ち込み稽古）をいかしながら課題練習を行わせる。</li> <li>• 元立ちの受け方は①～③に留意して行わせる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①遠間から行わせる。（間合い）</li> <li>②一足一刀の間合いでタイミングよく打たせる。（機会）</li> <li>③打たせた後の体さばきを速くして、掛かり手がのびのび打てるようにする。（残心）</li> </ul> </li> <li>• 竹刀の安全点検や礼法を正しく行わせる。</li> <li>• 試合をしていない者は、仲間の試合の様子から、課題が達成できていたかどうか批正しあいながら進めさせる。</li> </ul>	
まとめ 10分	8 整列、評価、あいさつ 本時、単元の学習評価 正座、黙想、座礼 9 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時及び単元のまとめをする。</li> <li>• 姿勢や礼法を確認する。</li> <li>• 剣道具の片付けを確認する。</li> </ul>	